

(発行が1週間も遅れてしまいました。お詫びいたします)

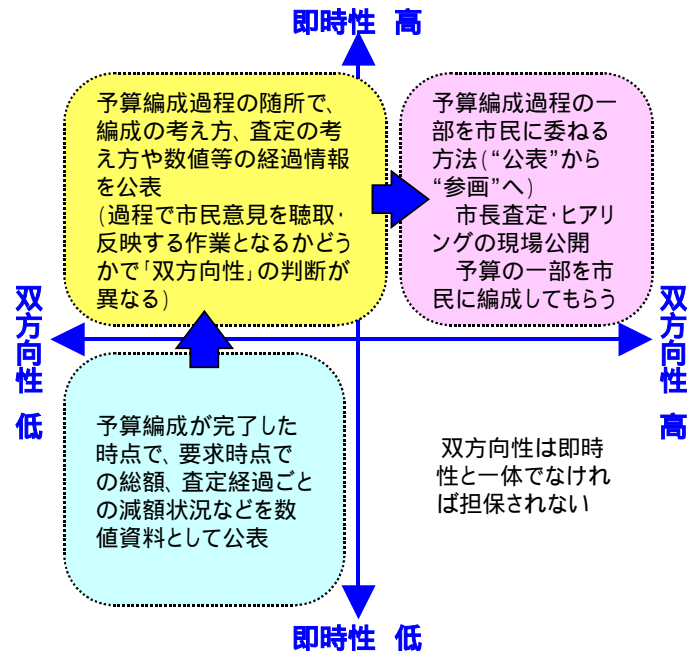
まるはだか宣言に則り、予算編成過程を公表します

ま

るはだか宣言。昨年9月に発表した「行政革命戦略 5つの宣言」のうちのひとつで、三浦市の情報戦略を示したスローガンです。その実践のひとつとして、**今年度から予算編成の過程を公表することにしました**。いくつかの自治体でも予算編成過程の公表は行われつつあります。ある意味で“流行”です。ただし、その公表の方法は様々です。いくつかの事例をもとに、その公表のあり方を整理してみました。

公

表のあり方を、「即時性」と「双方向性」を2つの軸で分類してみました。「即時性」とは、**予算編成過程の時間的流れに即して経過情報を公表するかどうか**を意味しています。「双方向性」とは、**公表された情報に基づいて市民意見を聴取・反映するしくみになっているかどうか**を意味します。一部の先進的な自治体では、すでに予算の1%を市民に予算編成してもらおうといったしくみを取り入れたり、市長と各部局による査定(ヒアリング)の現場を市民に公開したりしていますが、これは即時性、双方向性ともに高い公表の方法だと言えます。また、公表を始めたばかりの自治体の多くは、即時性、双方向性とも低い方法をとっています。これは、予算編成が完了した時点(予算案確定時点、または議会の議決により予算が確定した時点)で、これまで公表することのなかった要求から査定、確定に至る数値(金額)を“予算編成過程の振り返り”というかたちで公表する方法をとっているようです。「即時性、双方向性とも低い方法」とはいえ、**公表に向けた大きな第一歩であるという意味では評価に値するもの**だと思います。図の中に示した青い矢印は、公表の方法が進化する段階を示しています。徐々にではあっても、**すべての自治体が公表の方法を進化させていくのが望ましい**と考えます。



三

浦市でも今回の予算編成(平成17年度予算の編成)から編成過程を公表することにしました。上記分類に照らせば、その方法は、「即時性」はやや高く、「双方向性」は低い方法です。まず、全市的な予算編成方針を公表し(12月中旬)、これに即して各部門が編成をする際の取り組み方針(部門別の予算取組方針)を公表します(12月下旬)。そのうえで、議会に対して予算案として提出した時点で「予算の概要」を公表します。そして、議会で議決され確定した後に、どのようにメリハリのついた予算であるか、どのような工夫を施した予算であるかなどを解説したわかりやすいレポートとともに確定予算を公表します。これが、三浦市の予算編成過程の公表方法です。まだまだ第一歩ですが、今後より一層、即時性、双方向性を高める方法を検討し、導入していきたいと考えています。